

技術経営会議 第102回本会議（軽井沢）

テーマ『日本の次世代産業を支えるエコシステムの構築と共創に向けて』

技術経営会議の第102回本会議は、初秋の軽井沢で1泊2日にわたり会員と有識者が一堂に会し、統一テーマ（仮）「日本の次世代産業を支えるエコシステムの構築と共創に向けて」議論を繰り広げます。産・官・学の幅広い参加者との貴重な交流の機会です。

【開催時期】 2026年10月9日(金)13:00～10日(土)15:00[11日(日)交流ゴルフ]

【開催場所】 軽井沢プリンスホテルウエスト

【参加人数】 180～200名程度(現地開催のみ)

【プログラム】

- ・講演（4件）
- ・専門委員会報告／講演
- ・ラウンドテーブル討論；1テーブル30名程度×5テーマ
- ・ポスターセッション
- ・交流パーティー／コテージセッション
- ・軽井沢コネクト（アクティビティプログラム；テニス(10日)、ゴルフ(11日)

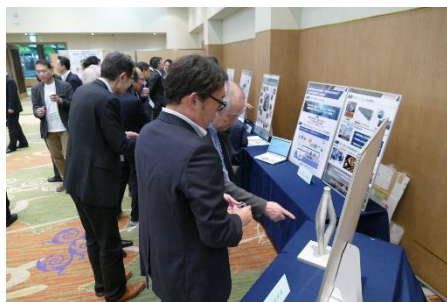
【お問い合わせ】 honkaigi@jates.or.jp



【第101回本会議の様子】



【ポスターセッション】



【ラウンドテーブル】



【コーヒーブレイク】



【交流パーティー】



【コテージセッション】

●2026年度参加費	役員クラス	左記以外
技術経営会議 会員会社	91,000※	45,000※
JATES 会員（法人・個人） （技術経営会議会員会社以外）	宿泊部屋数に限りがございますので個別にご相談下さい。	
JATES 会員外	☞ honkaigi@jates.or.jp	



【軽井沢コネクト(アクティビティプログラム)】
(ゴルフ&テニス)

※税込価格となっております。

宿泊代が高騰しておりますが2025年度とほぼ同額を予定しております。

奮ってご参加いただけますよう、宜しくお願い致します。

【第102回本会議(軽井沢)プログラム】

テーマ『日本の次世代産業を支えるエコシステムの構築と共創に向けて』

日時:2026年10月9日(金)、10日(土)、於:軽井沢プリンスホテルウエスト

10月9日(金)	時間	内 容
12:00~12:50	50 分	■技術経営会議審議/運営委員会(昼食含む) ・審議(会員代表者のみ参加。人事関連) ・運営委員会(運営委員の参加必須。技術経営会議運営方針関連)
13:00~13:10	10 分	■開会挨拶及び審議結果報告 技術経営会議 小林議長 / 朝倉事務局長
13:10~14:00	50 分	■講演1 演題:「半導体から始まる産業変革 — Rapidus が挑む共創型イノベーション —」 講師:石丸 一成 様(Rapidus(株) 専務執行役員 CTO)
14:00~14:50	50 分	■講演2 演題:「環境政策から見たビジネスの潮流」 講師:和田 篤也 様(元環境事務次官) ラウンドテーブル②関連のテーマ
14:50~15:20	30 分	■ポスター紹介(1~2分/組)
15:20~16:10	50 分	■休憩(チェックイン) ■ポスターセッション①(説明員あり)
16:10~16:50	40 分	■専門委員会報告 演題:「循環型社会実現のための共創の在り方を考える」 委員長:星野 理彰 副議長(NTT(株) 代表取締役副社長 副社長執行役員CTO) ラウンドテーブル②のテーマ
16:50~17:40	50 分	■講演3 演題:「多様性を価値に変える組織のあり方」 講師:野村 浩子 様(ジャーナリスト/公益財団法人 日本女性学習財団 理事長) ラウンドテーブル⑤のテーマ
17:40~18:30	50 分	■荷物移動(コテージ)・休憩
18:30~20:30	120 分	■交流パーティー(来賓挨拶、利き酒イベントなど)
21:00 頃 ~	一分	■コテージセッション/ホテルセッション(移動用バスの最終便は 23 時です)
10月10日(土)	時間	内 容
7:00~8:30	適宜	■朝食
8:30~9:20	50 分	■講演4 演題:「フィジカル AI から人間的知能へー身体性・認知発達が拓く日本の勝ち筋ー」 講師:國吉 康夫 様(東京大学 次世代知能科学研究センター長 情報理工学系研究科 教授) ラウンドテーブル①のテーマ
9:20~10:00	40 分	■専門委員会講演 委員長:梶田 直揮 副議長(株大林組 顧問) ラウンドテーブル③のテーマ 演題:「高効率 EEZ 探索システムの提案」 講師:大和 裕幸 様(独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構 特命参与)
10:00~10:20	20 分	■休憩・移動
10:20~12:20	120 分	■特別セッション;ラウンドテーブル(技術討論) テーブル① ~ テーブル⑤
12:20~13:40	80 分	■移動・昼食 ■ポスターセッション②(説明員あり)
13:40~14:30	50 分	■ラウンドテーブル(技術討論)の概要紹介;テーブル① ~ テーブル⑤
14:30~14:50	20 分	■総括 総括:技術経営会議 小林議長
15:00		■閉会(現地解散・ポスター撤収)/コーヒープレイク(自由参加)

軽井沢コネクト(アクティビティプログラム) (ゴルフは別途参加費あり)

10月10日(土)	時間	内 容
15:30~17:30	120 分	○交流テニス 於:軽井沢 PH テニスコート
10月11日(日)	時間	内 容
8:00~15:00	420 分	○交流ゴルフ 於:軽井沢72ゴルフ場北コース

■ラウンドテーブル詳細

①	テーマ	身体性・認知発達が拓く、わたしたちの事業機会	
		講演4「フィジカル AI から人間的知能へー身体性・認知発達が拓く日本の勝ち筋ー」の講演者・國吉康夫教授をお迎えし、次世代 AI ロボティクス技術の社会実装に向けた道筋を探る対話型セッションです。認知発達や身体性に基づく「真の汎用自律」という最先端の技術ビジョンや、2030 年を見据えた「汎用自律人型 AI ロボット」をテーマに、それらを参加企業の皆様が自社の事業変革や具体的なユースケースへどう落とし込めるかを議論します。アカデミアの構想と現場のリアルな期待・課題を交差させることで新たな事業機会を発見し、皆様それぞれに「具体的な次の一步のアイデア」を持ち帰っていただくことを目指します。	
	モデレーター	芥川 愛子 氏	㈱国際社会経済研究所 ソートリーダーシップ推進部 プロフェッショナル
	アドバイザー	國吉 康夫 氏	東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授
	アドバイザー	選定中	
②	テーマ	循環型社会実現のための共創の在り方を考える	
		資源制約や経済安全保障上の課題への対応が求められる中、循環型社会への移行は環境対策にとどまらず、日本の産業競争力強化に向けた重要な成長戦略となっています。しかし、その実現には制度、人材、情報連携、経済性など多様な障壁が存在します。本ラウンドテーブルでは、JATES 循環型社会専門委員会における検討成果をもとに、循環型社会の実現を阻む本質的な課題は何か、また民間と政府はそれぞれ何を担うべきかについて議論し、政策提言に向けた方向性を参加者の皆様とともに探ります。	
	モデレーター	森本 陽介 氏	(合)デロイトトーマツ Government & Public Services マネージングディレクター
	アドバイザー	梅田 靖 氏	東京大学 大学院工学系研究科 精密工学専攻 教授
	アドバイザー	和田 篤也 氏	元環境事務次官
	アドバイザー	星野 理彰 氏	NTT㈱ 代表取締役副社長 副社長執行役員CTO
③	テーマ	海洋フロンティア創造	
		気候変動や環境・資源問題、安全保障など多方面で転換期を迎える中、海洋は食料・資源・空間・エネルギーなど多様な価値を生み出す基盤として注目されています。その利用をめぐる技術や産業構造も急速に変化する中、本ラウンドテーブルでは海洋をめぐる技術的・ビジネス的課題を整理し、深海・公海など海域ごとのステークホルダー連携を探りながら、海洋フロンティアの未来像を議論します。	
	モデレーター	山内 輝暢 氏	㈱大林組 理事 技術本部 副本部長
	アドバイザー	大和 裕幸 氏	独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構 特命参与
	アドバイザー	渡辺 信彦 氏	内閣府総合海洋政策推進事務局 参事官
④	テーマ	日本の産業成長に向けたエコシステムの共創	
		日本の産業復活のための指針を探った昨年度のラウンドテーブルの議論を踏まえ、海外の巨大プラットフォームと伍するための共創戦略「Great Partner 構想」を構築しようとしています。その一環で、日本の潜在的な強みを生かし、持続可能な成長への伸びしろを有する海洋領域に着目し、「海洋事業プラットフォーム」を検討しています。今年度のラウンドテーブルでは、この「Great Partner 構想」と「海洋事業プラットフォーム」を深堀しつつ、共創によるイノベーションを起こす道筋を見出す議論を共に行いましょう。	
	モデレーター	北口 貴史 氏	金沢学院大学 経済学部 経済学科 教授
	アドバイザー	福田 京子 氏	東京大学 工学系研究科 社会連携・産学協創推進室
	アドバイザー	選定中	
⑤	テーマ	DE&I の可能性と乗り越えるべき壁とは	
		野村浩子様のご講演「多様性を価値に変える組織のあり方」を受け、「DE&I の可能性と乗り越えるべき壁」をテーマに人的資本経営、イノベーション創生、女性リーダーの活躍などの観点から、参加者みなさまで現場の課題を共有し、技術者組織が多様性を価値へと転換するための解決策を議論します。DE&I の可能性と、組織文化・評価制度・コミュニケーションの壁をどう乗り越えるかを多角的に議論し、役職にとらわれず立場を越えて、組織づくりのヒントを導き出しましょう。	
	モデレーター	選定中	
	アドバイザー	野村 浩子 氏	ジャーナリスト／日本女性学習財団 理事長
	アドバイザー	選定中	